

# パレットCX ローラー塗りタイプ

## 施工要領書

四国化成の製品をお買い上げいただき、ありがとうございます。

末永くご愛用いただくために、この「施工要領書」をよくお読みいただき、正しい施工をお願いします。

●施工は専門業者が行ってください。専門知識のない方が施工されますと、不具合発生の原因となる事があります。

### おことわり

1. 本品は天然の土や砂等を使用している為、ロットによる色違いや経時による退色はご容赦ください。
2. 地震などによって下地に振動が生じると、壁面にチリ切れやクラックを起こすことがあります。
3. 製品自体に白華の原因成分は配合されておりませんが、下地に起因した白華が生じる場合があります。
4. 壁面に強く触れると肌を傷つけることがありますので、ご注意ください。

### 安全に関する注意事項

- 製品の特性を十分にご理解いただき、正しくかつ安全にご使用いただくために、次の事項につきまして、ご尊守願います。
  - 詳細な内容については、安全データシート (SDS) をご参照ください。
1. 子供の手の届かないところに保管してください。
  2. 指定された材料以外を混合しないでください。
  3. 作業中は保護眼鏡、保護マスク、保護手袋等の保護具を着用してください。
  4. 作業中は換気を行ってください。
  5. 目に入った場合には、多量の水で洗い、医師の診断を受けてください。
  6. 誤って飲み込んだ場合には、ただちに医師の診断を受けてください。
  7. 作業後は手洗いとうがいをし、作業服は洗濯してください。
  8. 空容器の処理は仕分けして産業廃棄物業者に依頼してください。
  9. 残さ、残液を下水・河川・池・井戸・地下水などを汚染するおそれのある場所には廃棄しないでください。

### 施工前の注意事項

1. 直射日光の当る場所や湿度の高い場所、高温(40℃以上)または低温(0℃以下)での製品の保管は避けてください。
  2. 施工前には試し塗りをを行い、色や模様のパターンの確認を行ってください。
  3. 施工にあたっては次のものをご用意下さい。記載に無い物でも、必要に応じて用意ください。
- バケツ等の攪拌用容器 (錆がでない、汚れていないもの。)
  - 攪拌機 (リシンマゼール等)
  - 砂骨ローラー、ローラーバット (ローラー塗りの場合)
  - 左官道具一式 (鏝塗りの場合)
  - リシガン、コンプレッサー等の吹付道具一式 (吹付けの場合)
  - ひしゃく、小分け用バケツ
  - 刷毛 (幅広で毛が柔らかくもの。)、刷毛洗浄用容器 (水を入れて、持ち運びしやすいもの。)
  - 保護具一式 (保護マスク、保護眼鏡、保護手袋、作業服等)

## 施工上の注意事項

1. 指定された材料以外の混入はしないでください。
2. 気温5℃以下での施工は避けてください。
3. 施工後、硬化するまでに気温が0℃以下になる恐れがある場合は、施工を避けてください。
4. 施工中や硬化するまでの間に降雨や降雪が予想される場合は、施工を避けてください。
5. 乾燥しきらないうちに雨に当てないでください。降雨の恐れがある場合には、必ずブルーシート等で雨養生を行い、塗り面に雨がかからないように注意してください。
6. 乾燥時間は夏期一昼夜、冬期二昼夜を目安としますが、気象条件や塗り厚等によっては、それ以上の期間を要することがあります。
7. 夏期、下地が焼けるような高温状態の時は、下地に微量の水打ちをしたり日除けをしたりして、急激な乾燥を避けてください。また直射日光を避けて作業を行ってください。
8. 施工面以外に材料が付かないよう、周辺部は養生してください。作業中、誤って施工面以外に塗材が付着した場合には早めに洗い流してください。
9. 大きな面に施工する場合、美しい仕上げを行なうために1.8mピッチ程度で見切り目地を入れてください。
10. 塗装直後と乾燥後で塗材の色は異なります。乾燥後に本来の色になります。
11. 開封後はその日のうちに使いきり、混練りした材料の長時間放置は避けてください。やむをえず保存する場合は、塗材の表面にビニールを張る等し、水を張ることは避けてください。
12. 使用器具は付着した材料が硬化する前に水洗いをしてください。

## 下地に関する注意事項

### 1. 適応下地

#### ●セメントモルタル(金鍍押さえ)

……「ex.シーラー」(別売)でシーラー処理してください。

#### ●RC ……………「SKカチオンプラスター弾性タイプ」(別売)で下地処理してください。

#### ●古い外壁面(強度があり、撥水処理等がされておらず、水性塗料が接着するもの)

……………「SKカチオンプラスター弾性タイプ」(別売)で全面下地処理後、施工してください。

#### ●コンクリートブロック ……「ブロックプラスター」(別売)等で全面下地処理後、「ex.シーラー」(別売)でシーラー処理してください。

※「ブロックプラスター」等で下地処理をしなかった場合は、ブロックの目地が残った仕上りとなります。

#### ●石膏ボード(内装の場合) ……「SK工法」、「SK簡易工法」または「SKメッシュ工法」等に準じて下地処理してください。

#### ●ボード用石膏プラスター(内装の場合)

……………「ex.シーラー」(別売)でシーラー処理してください。

### 2. 下地の状態について

- 突起物はタガネ等で削りとって平滑にしておいてください。
- ゴミや汚れ、油分、カビ、藻等は取り除いておいてください。
- 下地は十分に乾かしておいてください。
- 強度が低い下地は全面補強し、十分な強度にしておいてください。
- 吸水が少ない下地の場合は、塗材がダレる恐れがありますので、加水量を少なめにし、薄塗りをこころがけてください。

### 3. 錆について

- 錆の恐れがある場合は、錆止めを施しておいてください。
- 錆が発生している場合は、錆を除去した後に錆止めを施しておいてください。

#### 4. 白華について

- 白華の恐れがある場合は、「ジュラックス シーラーB」(別売)を全面に塗布しておいてください。
- 白華が発生している場合は、白華を除去した後に「ジュラックス シーラーB」(別売)を全面に塗布しておいてください。

#### 5. ひび割れや欠損について

- ひび割れ部分は市販のエポキシ系や変性シリコン系、樹脂セメント系等の充填材で補修しておいてください。
- 欠損部分はセメントモルタル等で補修しておいてください。

#### 6. その他

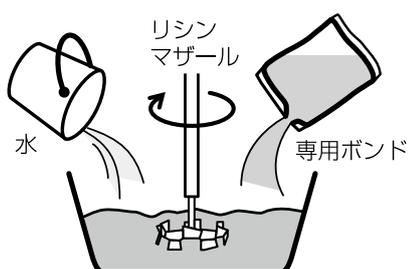
- 土留めには施工できません。
- 巾木(基礎部)に施工した場合、塗面の膨れや剥がれ等が発生する場合があります。
- ブロック塀の上端は、笠木を付ける等して水がたまらない構造にしておいてください。
- 埋め込み式のポストやインターホン、小窓等を使用する際には、周辺部をコーキングし、下地への雨水の浸入を防止してください。

### 梱包部品一覧表

名称	内容量	数量
カラー基材	6,900g/袋	2袋/ケース
ローラー用添加材	2,300g/袋	2袋/ケース
カラーマイカ	120g/袋	2袋/ケース
外装材用ボンドHG	2,600g/袋	2袋/ケース
施工要領書	—	1部/ケース

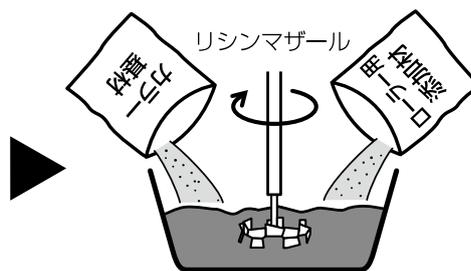
### 施工手順

#### 練り方(共通)

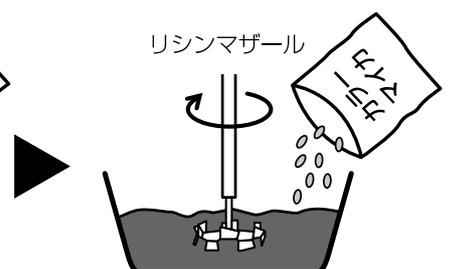


- 標準加水量の8割の水と、外装材用ボンドHG(2,600g)をリシンマゼールで混ぜます。

	標準加水量
ローラー塗り	2.0ℓ/セット
鍍塗り	1.6ℓ/セット
吹付け	2.2ℓ/セット



- カラー基材(6,900g)とローラー用添加材(2,300g)を加えて十分に混ぜ、20分程練り置きします。
- 練り置き後、残りの2割の水で粘度を調整しながら練り上げます。



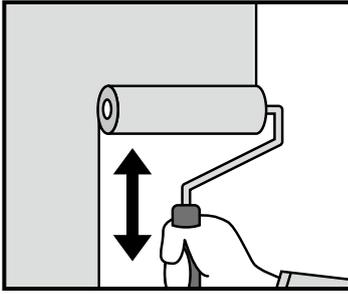
- 最後にカラーマイカ(120g)を加えて均一に混ぜ合わせます。

#### お願い

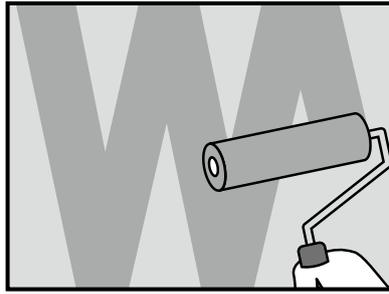
- ・粘度が出るまでに時間がかかりますので、必ず練り置き時間をとってください。
- ・標準加水量で粘度が高くて施工が難しい場合は、200g/set程度を限度に塗材がダレない範囲で加水して粘度を調整してください。(水の入れ過ぎは塗り面のダレの原因となります。)
- ・カラーマイカは混ぜ合わせ過ぎると小さく砕けてしまいますので、最後の混合時間は出来るだけ統一して大きさがそろうようにしてください。

## 【ローラー塗りの場合】 約6.6㎡/セット

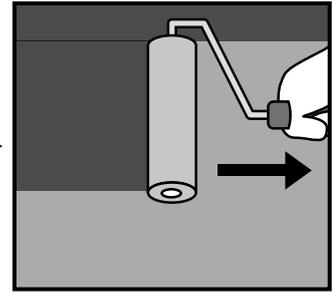
### 1 1回目塗り (目安塗布量: 約1,000g/㎡)



- 砂骨ローラーに材料をたっぷりとり、上下にゆっくりと塗り付けます。



- Wを描くように縦横それぞれに塗材を塗り広げ、塗り厚を均一にします。



- 最後にローラーを横方向に転がして肌目を揃えます。

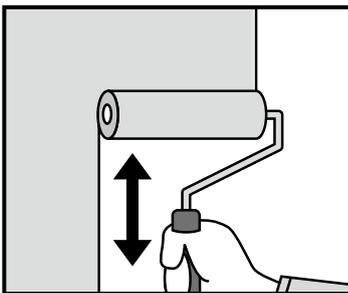
ポイント

- ・1回目塗りの状態では下地が透けますが、②の2回目塗りで下地が隠蔽されます。
- ・一度に厚塗りをせず、厚みが均一になるように塗り広げてください。

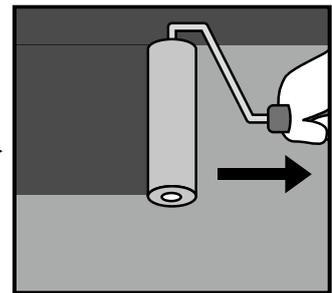
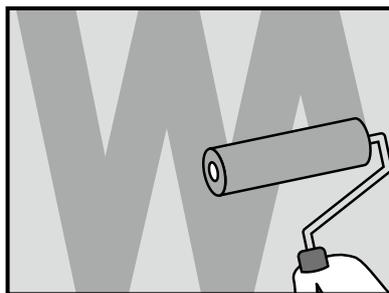
お願い

- ・塗り継ぎは必ず目地部やコーナーで行い、同一面で塗り継がないでください。
- ・狭い場所や入り組んだ場所は、刷毛等で塗り付けてください。

### 2 2回目塗り (目安塗布量: 約1,100g/㎡)



- 1回目塗りの指触乾燥後、もう一度、①と同じように塗布します。
- 1回目塗りと2回目塗りで、合計塗り厚が1.0~1.5mmが目安です。



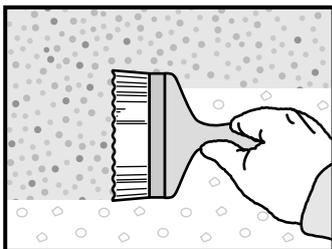
ポイント

- ・1回目塗りと2回目塗りの塗装間隔は夏期2時間以上、冬期4時間以上が目安です。
- ・1回目塗りが未乾燥の状態ですぐに2回目塗りをすると剥がれや膨れ、ダレが発生しますので、1回目塗りは最低、指で触っても動かない程度まで乾かします。

お願い

- ・下地の古壁が濃色の場合や凹凸が大きい場合は、3回塗り以上が必要な場合があります。

### 3 刷毛引き (仕上げ)



- 「2回目塗り」の後すぐに、水で軽く濡らした塗料用の平刷毛等を用い、横方向に表面を優しく掃いてマイカを浮き上がらせませす。
- 20~30cm間隔くらいで表面を掃き、1段下はスタート地点を半分ずらすなどして継ぎ目がランダムになるようにします。
- 刷毛に塗材が付いてきたら、水洗いして水気をきって使用してください。

ポイント

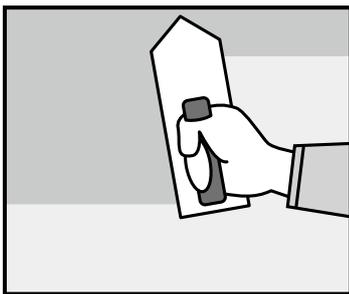
- ・塗料用の「平刷毛」等、毛先のやわらかい刷毛を使います。
- ・塗り付けと刷毛引きは2人以上で分担すると作業がはかどります。

お願い

- ・刷毛引きは表面水が引かないうちに早めに行ってください。
- ・水をつけ過ぎると、仕上り面に筋状のムラが出来ますので避けてください。

## 【鍍塗りの場合】 約5.5㎡/セット

### 1 1回目塗り (目安塗布量: 約1,100g/㎡)



- ステンレス鍍で全面にしごき塗りを行います。

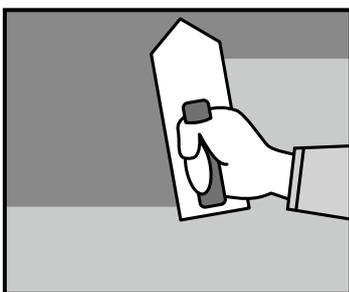
ポイント

- ・1回目塗りの状態では下地が透けますが、②の2回目塗りで下地が隠蔽されます。
- ・一度に厚塗りをせず、厚みが均一になるように塗り広げてください。

お願い

- ・塗り継ぎは必ず目地部やコーナーで行い、同一面で塗り継がないでください。

### 2 2回目塗り (目安塗布量: 約1,300g/㎡)



- 1回目塗りの指触乾燥後、もう一度、①と同じように塗布します。
- 1回目塗りと2回目塗りで、合計塗り厚が1.0~1.5mmが目安です。
- 肌目を石目調にするために、2回目塗り直後に砂骨ローラーを横方向に転がして表面を凸凹にしてください。  
(ローラーを転がさない場合は凸凹感は出ません。)
- 砂骨ローラーは一度材料にひたしておき、ローラーに材料を含ませておいてください。

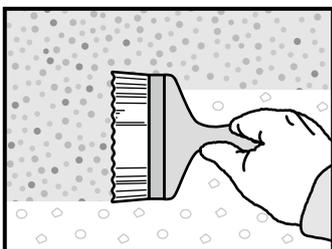
ポイント

- ・1回目塗りと2回目塗りの塗装間隔は夏期2時間以上、冬期4時間以上が目安です。
- ・1回目塗りが未乾燥の状態では2回目塗りをを行うと剥がれや膨れ、ダレが発生しますので、1回目塗りは最低、指で触っても動かない程度まで乾かします。

お願い

- ・下地の古壁が濃色の場合や凹凸が大きい場合は、3回塗り以上が必要な場合があります。

### 3 刷毛引き



- 「2回目塗り」後すぐに、水で軽く濡らした塗料用の平刷毛等を用い、横方向に表面を優しく掃いてマイカを浮き上がらせます。
- 20~30cm間隔くらいで表面を掃き、1段下はスタート地点を半分ずらすなどして継ぎ目がランダムになるようにします。
- 刷毛に塗材が付いてきたら、水洗いして水気をきって使用してください。

ポイント

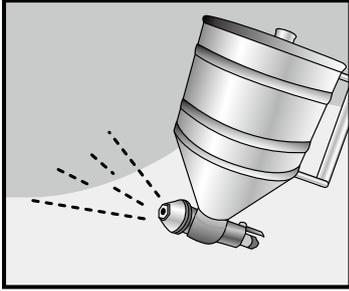
- ・塗料用の「平刷毛」等、毛先のやわらかい刷毛を使います。
- ・塗り付けと刷毛引きは2人以上で分担すると作業がはかどります。

お願い

- ・刷毛引きは表面水が引かないうちに早めに行ってください。
- ・水をつけ過ぎると、仕上り面に筋状のムラが出来ますので避けてください。

## 【吹付けの場合】 約5.5㎡/セット

### ① 1回目吹き (目安塗布量: 約1,100g/㎡)



- 口径が7.5mm以上のリシンガン (または多用ガン) を用い、空気圧は5～7kg/㎡を目安に吹付けてください。
- 試し吹きをして加水量や空気圧を調整してください。

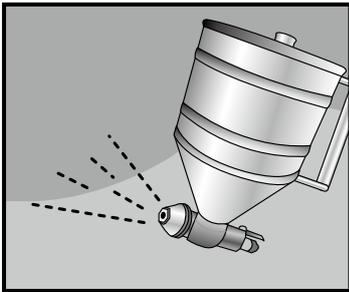
ポイント

- ・1回目塗りの状態では下地が透けますが、②の2回目吹きで下地が隠蔽されます。
- ・一度に厚吹きをせず、厚みが均一になるように吹付けてください。

お願い

- ・塗り継ぎは必ず目地部やコーナーで行い、同一面で塗り継がないでください。
- ・ダレの原因となりますので、一度に厚吹きしないでください。

### ② 2回目吹き (目安塗布量: 約1,300g/㎡)



- 1回目吹きの指触乾燥後、もう一度、①と同じように吹付けます。
- 1回目吹きと2回目吹きで、合計塗り厚が1.0～1.5mmが目安です。

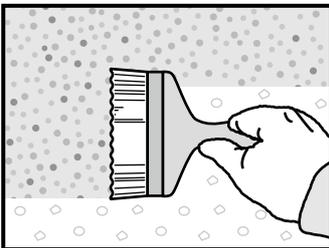
ポイント

- ・1回目吹きと2回目吹きの塗装間隔は夏期2時間以上、冬期4時間以上が目安です。
- ・1回目吹きが未乾燥の状態で行うと剥がれや膨れ、ダレが発生しますので、1回目吹きは最低、指で触っても動かない程度まで乾かします。

お願い

- ・下地の古壁が濃色の場合や凹凸が大きい場合は、3回吹き以上が必要な場合があります。

### ③ 刷毛引き



- 「2回目吹き」後すぐに、水で軽く濡らした塗料用の平刷毛等を用い、横方向に表面を優しく掃いてマイカを浮き上がらせませす。
- 20～30cm間隔くらいで表面を掃き、1段下はスタート地点を半分ずらすなどして継ぎ目がランダムになるようにします。
- 刷毛に塗材が付いてきたら、水洗いして水気をきって使用してください。

ポイント

- ・塗料用の「平刷毛」等、毛先のやわらかい刷毛を使います。
- ・吹き付けと刷毛引きは2人以上で分担すると作業がはかどります。

お願い

- ・刷毛引きは表面水が引かないうちに早めに行ってください。
- ・水をつけ過ぎると、仕上り面に筋状のムラが出来ますので避けてください。

改良のため予告なしに製品の一部を変更することがありますのでご了承ください。